

第29回測量経営者研修会 実施報告

平成30年8月31日(金)、東京都新宿区の測量年金会館において、第29回測量経営者研修会を開催しました。

今回の研修会には、41名の受講者が参加しました。

開会にあたり、日本測量協会関東支部小野邦彦支部長から、開会の挨拶として、本研修の目的と今回のテーマは「測量の新技术への対応」であることが紹介されました。



小野支部長の開会挨拶

次に、講演として、公益社団法人日本測量協会矢口彰会長から、今年から来年にかけては、測量に関する記念年にあたることから、『200年・150年・70年・30年』 ～我が国測量の記念年に思うこと～ と題して、ご本人のこれまでの仕事を通じて見聞きしたエピソードや感じたことも紹介されながら、測量の歴史などについて講演されました。

※	200年	・・・	1818年	伊能忠敬没
	150年	・・・	1869年	明治新政府 民部官庶務司戸籍地図掛設置
	70年	・・・	1949年	測量法公布・施行
	30年	・・・	1989年	測量の日制定



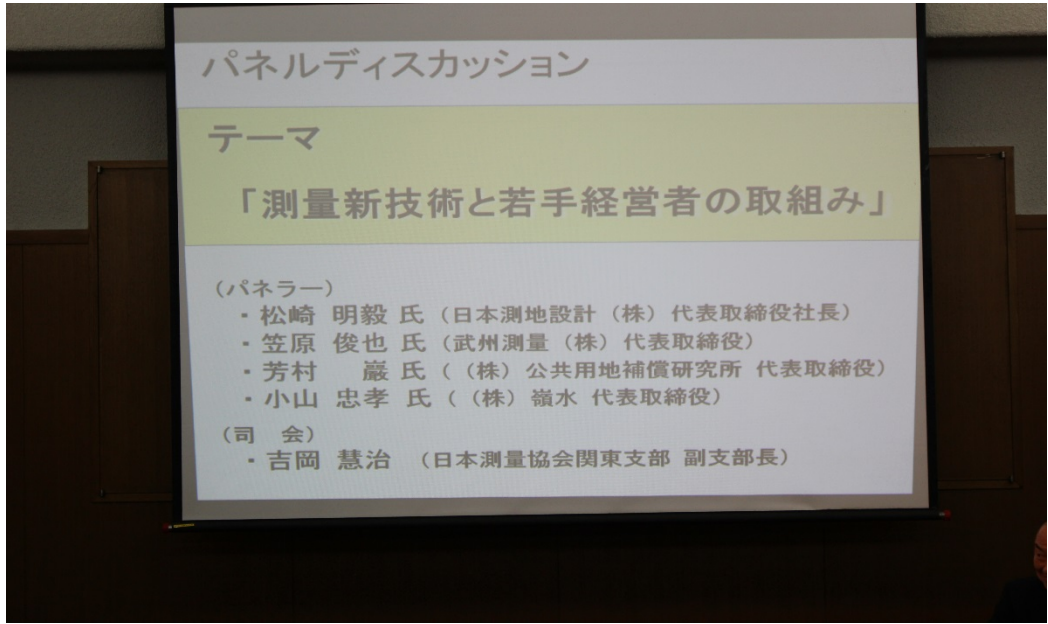
日本測量協会矢口会長による講演

続いて、内閣府宇宙開発戦略推進事務局準天頂衛星システム戦略室参事官補佐の川津泰彦氏から「準天頂衛星による最新衛星測位技術について」と題して、準天頂衛星『みちびき』の機能や、国内外での様々な産業分野における利活用などについての講演がされました。



内閣府宇宙開発戦略推進事務局川津氏による講演

続いて行われたパネルディスカッションは、三陽技術コンサルタント（株）の代表取締役で、日本測量協会関東支部副支部長の吉岡慧治氏の司会により、「測量新技術と若手経営者の取組み」をテーマに、4名のパネラーにより討議を行いました。



最初に司会の吉岡氏から、ICT技術革新や、人材確保・人材育成など、測量業が抱える現状の問題点がいくつか示され、それらの問題点に対して、日本測地設計(株)の松崎明毅氏、武州測量(株)の笠原俊也氏、(株)公共用地補償研究所の芳村巖氏、(株)嶺水の小山忠孝氏、の4人の若手経営者のパネラーから、新技術にどう取り組んで行くか、今後どのように若手職員を確保していくかなど、解決案や将来の見通しなどについての意見が述べられ、また、経営者として最も重要なことや、自分が会社の経営者として、今取り組んでいることなどが紹介され、測量業の将来に向けての活発な意見交換が行われました。



パネルディスカッションの様子



上段左から、パネラーの松崎氏、笠原氏、（下段）芳村氏、小山氏、司会の吉岡氏

最後に、社会部会長の小安隆夫氏から閉会の挨拶があり、今年度の測量経営者研修会を予定どおり終了しました。

本研修会の開催に当たりましては、関東支部社会部会委員の皆様にご尽力をいただきましたこと、関東支部事務局より深くお礼申し上げます。